

純情なフリをした
甥っ子に騙されて
チ○ポ専用肉便器に
されちゃったババア



黒野タイツ



純情なフリをした
甥っ子に騙されて
チ○ポ専用肉便器に
されちゃったババア



黒野タイツ

妹が海外赴任中の夫の世話をするため
ひとり息子、つまりあたしたちにとっての
甥っ子を夏休み中だけ預かってほしいと言っ

もちろん、よるんんで引き受けた



子どものできななかったわたしたち夫婦にとつて、
甥っ子は本当の息子のようなもの

ううん、歳をとった今となつては、
半分孫みたいなものかな(笑)

わたしは、この子が幼い頃から、
本当に可愛がった



甥っ子がウチに来てから数日たった
ある日、突然甥っ子から告白された

子どもの頃からずっと好きだった
伯父さんもいるし、
付き合ってくれとは言わないから、
どうかひと夏の思い出をって

まさか、可愛い甥っ子が、
わたしのことを伯母ではなく
女としてみていたなんて…



そんなのダメに決まってる
伯母と甥っ子、実の妹の息子となんて…

でも、手を合わせて、
泣いて頼む甥っ子の
姿を見ていると、

わたしはほんっついても
拒否するムジギがでまなかつた



だからわたしは、仕方なく、1回だけ

ほんとうに、ひと夏の思ひ出を一つ、

甥っ子の願いを叶えてあげるとした

…本当のことを言うって、

可愛くって大好きな甥っ子に女として求められて、
ちよっとだけ、うれしかったのかもしれない

それに、夫とはもう、ずっとぶんご無沙汰だし…

そして、わたしは…

結果、
メチャクチャに蹂躪された



甥っ子は、顔に似合わず

凶悪なほど大きなオチ○チンを持っていて、

そんなに大きなオチ○チンを

今まで見たこともなかったわたしが

びっくりして狼狽えていると…





甥っ子はその大きくて遅しいオチ○チンを
半ば強引にわたしの口に押し込んで来て、

わたしが、矢継ぎ早に起きたことに混乱して
為すがままにさわれていってるよ、

甥っ子はナマのまま、あっといふ間に
オチ○チンをわたしのオマ○コに挿入

そして、激しく腰を振った

わたしが、なんとか、やっこの思いで
中出しだけは堪忍してと言いつつ

甥っ子は、わたしの顔めがけて
大量の精液を勢いよく射精

そしてわたしは、
この人のオナナにされた



その日以降、わたしの生活は一変した

毎朝、夫が仕事に行った直後から、
彼はわたしを求める

そっけで、それを逆らえないわたし



幾らかの抵抗は試みてはみた

けれども、このオチ○チンを出されると、
わたしの理性はすぐどどまかに飛んで行ってしまっ

気付くとわたしは、彼のオチ○チンをおしやぶりに



そして彼は、わたしのオマ○コを舐める


それが、あまりにも気持ち良すぎて、
わたしはつい、自分から彼の口に
腰を振ってしまっ…

これじゃあ彼に、
自分から求めていると思われても
仕方がない



そしてわたしは、
口ではダメよダメよと言いつつも、
彼のオチ○チンを
ほとんど自分から受け入れてしまっ

…この人とセックスしていて、
ひとつだけ、わかったことがある



この人は、絶対に初めてじゃない！
セックスに小慣れ過ぎている！！

たぶん、今までわたし以外にも
たくさんの女性とセックスしてる！

そして、絶対にわたしより
セックスをした回数は、圧倒的に多い！

この人が家に帰るまで、
夏休み中ずっと、
こんな生活がほとんど毎日続くのかしら…

夫にバレないかより、
自分の身が持つかどうかのほうが、
本当に心配だわ…



でも、それは杞憂だった

ある目を境に、彼はぼったり、

わたしのことを求めなくなっただのだ

朝、夫が仕事へ行くと、

彼もそのあと、どこかに出かけてしまっ

(他に女でもらうのかしら)

わたしはよるこんだ

やっとまともな生活が帰ってきてくるよ…

そういう訳にはいかなかった！
わたしは結局、もう彼の
オチ○チンなしでは生きられないのだ

わたしは禁断症状に苦しんだ

代わりと言ってはなんだけど、
久しぶりに夫を誘って見ても
冗談だろ、の一言…

わたしは昼間、
誰もいない部屋でひとり、
自分自身を慰めた



そしてわたしは遂に、
実の甥っ子に、
自分からこんな恥ずかしい姿を…

お願いします
どうかわたしを抱いてください
何でもいうことを聞きますから、
どうか…



































